

箏曲の心

伝統芸能コース

箏曲

目的

- ・箏曲(そうきょく)の演奏を経験して、日本の伝統音楽のよさや美しさを体感する。

効果

- ・奏法の技能を高めることで、日本的な雰囲気を感じながら集中力・表現力を習得する。

到達点

- ・限られた時間でできる最高の演奏をし、日本の心にふれる感動を得る。



事前学習

「斗為巾(といきん:箏の十三弦のうち11・12・13本目の呼称から)」の楽譜の読み方、爪の付け方を予習する。

ワークショップの流れ(3日間く2コマ/日)

箏(邦楽器)に触れる前の礼節と姿勢などの講義



箏とその音色を知り、奏法を学習



音色と音の流れを意識して演奏演習



凜とした「心からの演奏」の心構えなどの講義



ミニ演奏会に向けての演奏演習



質疑応答・感想文の作成

事後学習

音楽の授業で、ミニ演奏会のビデオを鑑賞し合評する。



講師 林美恵子
はやし みえこ

略歴

箏奏者

(社)京都當道会大師範、京都教育大学音楽科非常勤講師、京都教育大学教員養成実地指導講師。1957年、京都下派地歌・箏曲演奏家の三好敦子師に師事、1967年内弟子。その後、現代音楽演奏研鑽のため沢井忠夫師、柳川三味線による古典習得のため津田道子師に師事。1975年、柳川三味線(京三味線)の初レコーディング(CBSソニー)。NHKテレビ・ラジオ出演、CD収録、海外演奏も多数。

advice points

- 通常の音楽の授業で、邦楽の基本を学んでおく。
- 楽器は受講者数を準備するのが望ましい。

…ワークショップを実施して…

講師の感想

初めて箏を演奏したことで、生徒たちは日本音楽に一步近づき、箏曲を新たな芸術音楽として認知するとともに、箏の音色に感動してくれたことが如実に感じ取れた。ミニ演奏会に足を運んで下さった方々から、多くの感動の言葉をいただいたことは、ワークショップの成果を示しているのではないかと感じている。

先生の感想

今の生徒たちは、音楽に対する感覚はかなり鋭いので、入口で興味をもたせ、その後の指導につなげていくためには、プロの指導が高い効果をあげると考えられる。また、箏独特の奏法と音の楽しみ方、先人の優雅な文化を感じ取る機会になればと思った。生徒たちは箏曲(日本音楽)も1つの音楽ジャンルとしてすんなり受け入れ、演奏していた。

生徒の感想

- ・箏を本格的に、わかりやすく教えてもらえて楽しかった。
- ・日本音楽(箏)は、弦1本をはじいた音が空間に響いている感じがする。
- ・六段の調への「後押し」の奏法は、日本音楽にしかない音だと思う。
- ・オーケストラの音楽は緊張するが、日本音楽は聴いていて落ち着く気がする。

より発展的なワークショップを実施するために

- 通常の音楽の授業で引き続き稽古を行い、新たな曲に挑戦する。
- 箏曲の演奏会を鑑賞する。
- 三味線など他の邦楽器にも触れてみる。